

天然記念物とは？

天然記念物とは、国、県、市町村のどのレベルにおいても、高い学術的価値を持つと認定された動物、植物、鉱物、地質的特徴を指す。

焼石山公園

大牟田市内には、米ノ山断層が走っている。断層に沿ってずれが生じ断崖が形成され、石炭の層が露出した。現在、南北 10 キロメートル、幅 200～300 メートルのこの垂直断層全体が焼石山公園となっている。駐車場から展望台に向かう階段を上っていくと、左側に断層がはっきりと見える。駐車場近くの断層西側には、幅 30～50 センチ、長さ 10 メートルほどの 4000 万年前の石炭層を見ることができる。垂直の断層と露出した石炭層の両方を見ることができるのは、九州ではこの場所だけである。

焼石山公園で見られるような露出した石炭の恵みこそが、大牟田が何百年もの間炭鉱で知られてきた理由である。大牟田地域では 1469 年に近くの稻荷山で石炭が最初に発見された。この断層は 2006 年に福岡県の天然記念物に指定された。

土穴のエノキ

エノキ (*Celtis sinensis Pers.*) は、本州、四国、九州、およびその他の東アジア地域で見られる落葉樹である。一般的なエノキの樹高は 20 メートル、幹周は 3 メートルである。土穴のエノキはさらに大きく、直近の測定では樹高 24 メートル、幹周 5.5 メートルである。枝先から枝先までの東西の距離は 27 メートル、南北の距離は 18 メートルに達する。この木が立っている土地の所有者は、樹齢は 300 年を超えていると考えている。

この木は、1979 年に県で唯一のエノキの巨木として福岡県天然記念物に指定された。この木は、周辺の土穴地区にちなんで名付けられた。大牟田市は 2016 年に、この木を景観重要樹木に指定した。この地域の象徴であるこの木は、北側から見るのが一番良い。4 月から 5 月にかけて花が咲く。